

放課後等デイサービス事業所における自己評価

事業所名 ラルーチェめぐみ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	5	2	・場面、場面で必要に応じてレイアウトを変えている。 ・のぞみは学習スペースやプレイスペース分けているが、個別スペースがないため支援の限界を感じる場面もある。必要に応じて他事業所のスペースを借りるなどの対応を行う。
	2	職員の配置数は適切である	6	2	1	・基準の配置数は満たしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	1	・のぞみは2階なのでバリアフリーの対応ではない。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	2		・職員間で話し合いを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1		・9月に次年度や今後の方向性の検討のためアンケートを実施する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1	1	・評価結果を職員に周知するようにし、できることから改善できるようにしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	1		・岡山県の施設サービス自主評価を実施し、HPに公表をしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			・人内での研修を実施しているが、内容が十分ではないこともあるため、法人内での検討事項としている。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9			・心理アセスメントはスペースや部屋の確保が難しいため、適切な対応ができていない。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	1	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			・チーム会議にて話し合いを行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			・固定化しないように配慮しているが、利用児が混乱しないようにある程度のルーティンは必要 ・週案でチェックをしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	1		・前もっての予定を検討し職員会議等で提案する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	1		・段取りや準備については前日やその日に行っている。 ・朝礼等で流れを確認している。 ・週案を見える場所に設置するとともに、当日に打合せを行う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	1	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1		・引継ぎ書に記入を必ず行う。 ・職員会議等で情報共有をし統一した支援ができるようにしている。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	9			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	1		・その都度行っている。学校訪問はコロナ禍のため実施できていない。来年度は実施できるように各学校と連絡を取り合っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5	2	・医療ケアの必要な利用児については該当なし。 ・現状としてはできていないが、利用児によっては理学療法や作業療法の様子を見てもよいとの確認が取れているため、調整を行っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	1		・担当者会議にて情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	1	・個人ケースについては助言を受けている。研修の依頼などの機会を作っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	1	3	・法人内に放課後児童クラブができたので、交流の機会を増やしていくようにする。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	7	1	1	・担当者が参加している。コロナ禍のため研修会は実施できていないが、必要に応じて職員も研修会に参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1	4	・コロナの関係で実施できていない。
保護者への説	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	4	・保護者会はなし
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		

明 責 任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			・ラルーチェだより、のぞみだより、学園広報、ホームページで発信している。HPの更新については行事だけでなく、普段の療育内容についても発信できるようにしていく。
	35	個人情報に十分注意している	9			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			・特性を理解し子どもに応じた対応をしている。 ・保護者に応じて話し方や時にはメモを渡すなどの対応の工夫を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	3	・コロナ禍のためできていない。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2		・感染症マニュアルについては作成中。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			・火災避難訓練は毎月、風水害、地震、不審者など災害訓練は年間1回ずつ実施している。 ・その都度訓練後に担当者が今後活かすために意見を聞くようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			・年間計画を立て実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	1	・現在はないが支援の中で必要であれば、保護者依頼を行う。おやつ提供やクッキングについては内容の検討を行っていく必要がある。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		1	